

半導体関連産業の集積促進に関する  
社会資本整備に係る特別要望

令和6年（2024年）7月

熊本県



本県に未曾有の被害をもたらした平成28年熊本地震、令和2年7月豪雨災害においては、地方負担の最小化のため手厚い御支援をいただき、深く感謝申し上げます。  
また、半導体生産拠点に必要な関連インフラ整備に対しては、令和5年度補正予算において、新たに地域産業構造転換インフラ整備推進交付金制度を創設いただき、重ねて感謝申し上げます。

本県は、財政基盤が脆弱である中、国の御支援をいただきながら、大規模災害からの復旧・復興に全力で取り組んでいます。

中でも球磨川流域の安全・安心を実現するため、新たな流水型ダムを含む「緑の流域治水」を国と連携して強力に推進しているところです。また、道路においても豪雨や地震等の自然災害に対して強靱な道路ネットワークを構築するため、県内全域において、幹線道路の整備や防災対策等に全力で取り組んでおります。

異常気象による災害が頻発する中、本県では国土強靱化に向け、河川や道路等の社会基盤の整備を更に推し進める必要があります。

このような中、経済安全保障を担う国家プロジェクトとして、国の多大なるご支援のもと、本年2月に本県にTSMCの国内製造子会社であるJASMの新工場が完成し、第2工場の本県立地も発表されました。

半導体関連産業の集積により、本県の産業振興・経済成長が期待される一方で、渋滞対策や地下水の保全といった喫緊の課題解決のため、道路や鉄道、上下水道等の社会資本を短期・集中的に整備する必要があります、今後も多額の財政負担が見込まれます。

本県としましても、覚悟を持ってこれらの取組みを進めていく所存ですが、我が国の経済安全保障を担う国家プロジェクトとして、国の最大限かつ継続的な別枠での御支援が不可欠です。

ついては、次の事項について、必要な財源を確保いただきますようお願いいたします。

令和6年7月

熊本県知事 木村 敬

熊本県議会議長 山口 裕

# 目 次

1	道路整備推進への支援	2
	【内閣官房、内閣府、財務省、国土交通省】	
2	阿蘇くまもと空港アクセス鉄道整備及びJR豊肥本線機能強化への支援	4
	【内閣官房、内閣府、財務省、国土交通省】	
3	排水対策への支援	6
	【内閣官房、内閣府、総務省、財務省、経済産業省、国土交通省、環境省】	
4	新規工業用水供給への支援	7
	【内閣官房、内閣府、総務省、財務省、経済産業省】	

# 国への要望内容

## 1 交通渋滞解消のための道路整備

○今後の半導体関連産業の集積を踏まえた交通渋滞解消に向け、セミコンテクノパーク周辺の道路整備を短期・集中的に進めることが必要。

○道路整備に必要な予算の確保のため、**昨年度新たに創設いただいた「地域産業構造転換インフラ整備推進交付金」**の重点配分など、引き続き、国による最大限の財政支援をお願いしたい。

## 2 空港アクセス鉄道の整備及びJR豊肥本線の機能強化

○半導体関連産業が集積する地域を、熊本駅や都心部、さらには阿蘇くまもと空港と結ぶ空港アクセス鉄道の整備及びJR豊肥本線の機能強化が必要。

○企業集積地における人流と物流を支える交通インフラとして交通渋滞解消の効果を最大化するため、道路整備に加え、公共交通網の充実・強化による企業活動の円滑化が求められていることから、地域産業構造転換インフラ整備推進交付金の対象としていただくとともに、国による最大限の財政支援をお願いしたい。

## 3 下水処理場の整備

○半導体工場の更なる立地が見込まれる場合、工場排水に対応する新たな処理場の整備が必要。

○特定公共下水道事業に必要な予算の確保のため、**昨年度新たに創設いただいた「地域産業構造転換インフラ整備推進交付金」**による重点配分など、引き続き、国による最大限の財政支援をお願いしたい。

## 4 新規工業用水の整備

○地下水のみに頼らない豊富で低廉な工業用水の新規整備が必要。

○浄水場の建設、管路整備等に必要な予算の確保のため、**昨年度新たに創設いただいた「地域産業構造転換インフラ整備推進交付金」**による重点配分など、引き続き、国による最大限の財政支援をお願いしたい。

# 半導体関連産業の集積促進に向けた道路整備推進

要望事項

【内閣官房、内閣府、財務省、国土交通省】

半導体関連産業の集積に伴う交通渋滞解消に向けた道路整備への財政支援

## 【要望の内容】

国家プロジェクトであるTSMCの進出をはじめとする半導体関連産業の集積に伴う物流の効率化、人流の円滑化を図るためには、道路ネットワークの早期整備が必要不可欠であり、国及び県、周辺市町が連携し、時間的緊迫性をもって進めることが重要である。

このため、県及び周辺市町では交通渋滞解消に向けた抜本的対策として、セミコンテックパーク周辺の道路整備を概ね10年間を目途に進めており、特に優先度の高い菊陽空港線を令和8年度までに、合志インターチェンジアクセス道路及び県道大津植木線（原水工区）については、令和10年度内の完成を目指して短期・集中的に整備を進めている。

これらの整備に必要な予算の確保のため、昨年度新たに創設いただいた「地域産業構造転換インフラ整備推進交付金」の所要額の配分など、国による最大限の財政支援をお願いしたい。

また、短期・集中的に整備を進めるセミコンテックパーク周辺の道路は、九州の横軸となる中九州横断道路と一体的に機能することで大きな効果を発揮することが期待される。

つきましては、半導体関連産業の集積エリアと九州縦貫自動車道を繋ぐ中九州横断道路「大津熊本道路」の整備加速化に必要な予算の重点確保、さらに熊本環状道路を經由し熊本港までを繋ぐ「熊本北～下硯川」間（熊本環状連絡道路）の早期事業化について、特段の御配慮をお願いしたい。

## 【現状・課題】

世界的半導体企業であるTSMCが進出するセミコンテックパーク周辺地域は、従前より、通勤時間帯を中心に激しい交通渋滞が発生しており、県及び周辺市町においては、半導体関連企業の集積に伴い、新たに発生する交通需要に対応するため、将来の基幹となる道路ネットワークの中から優先度の高い路線を選定し、集中的に整備を進めている。

そうした中、当該地域では、本年2月にTSMC関連のJASM第1工場が開所し、さらに第2工場についても、第1工場の東側隣接地への建設が決定するなど、更なる企業集積の進展が見込まれることから、周辺道路整備の一層の加速化が必要な状況にある。

今後、国家プロジェクトであるTSMCの進出を契機とした「新生シリコンアイランド九州」の実現につなげ、その効果を九州はもとより日本全体に波及させるためには、周辺道路整備を短期・集中的に進め、半導体生産拠点に関連する物流の効率化・人流の円滑化を図る必要がある。

県としては、当該地域の交通渋滞解消に向けた抜本的対策として優先して取り組みを進めている合志インターチェンジアクセス道路及び県道大津植木線（原水工区）について、令和10年度内の供用目標を示すとともに、県と市町が一体となり周辺の道路整備を概ね10年以内を目途に集中的に進める必要があると考えており、安定的な財源の確保が極めて重要である。

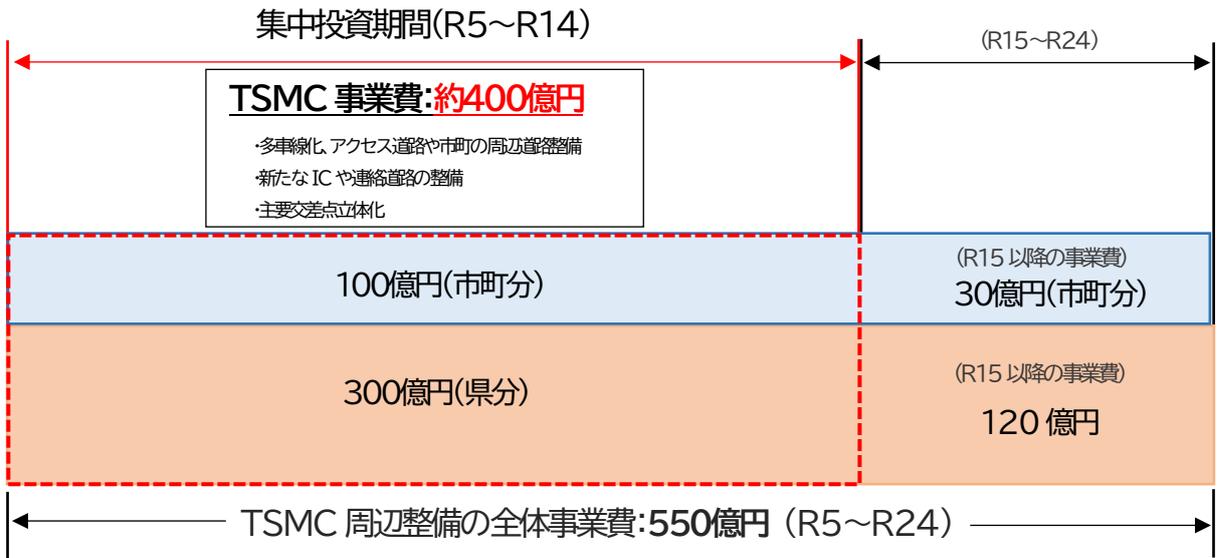
また、これらの道路整備の効果を最大限発揮させるためには、九州の横軸となる中九州横断道路の整備を更に加速させる必要がある。



セミコンテックノパーク周辺の渋滞状況（国道57号）



セミコンテックノパーク周辺の渋滞状況（菊陽町道）



# 阿蘇くまもと空港アクセス鉄道整備及びJR豊肥本線機能強化 への特別な財政支援

## 要望事項

【内閣官房、内閣府、財務省、国土交通省】

## 阿蘇くまもと空港アクセス鉄道整備及びJR豊肥本線機能強化に対する財政支援

### 【要望の内容】

半導体関連産業の集積拠点における公共交通網の充実、強化により企業活動の円滑化を図るため、「空港アクセス鉄道の整備」及び「JR豊肥本線の機能強化」を進めていくこととしている。

こうした取組みは道路整備と同様に、半導体関連産業集積拠点地域での渋滞を緩和し、交通の円滑化に資するものであり、半導体関連産業の復活を目指す国家プロジェクトの成功に必要な不可欠であることから、本事業の意義を鑑みた最大限の財政支援をお願いしたい。

- ①半導体関連産業集積地において円滑な企業活動に欠かせないインフラとして、阿蘇くまもと空港アクセス鉄道整備及びJR豊肥本線機能強化に係る鉄道整備を「地域産業構造転換インフラ整備推進交付金」の対象としていただきたい。
- ②その上で令和7年度から実施する、半導体関連産業集積地の周辺開発エリアの新たな玄関口となるJR豊肥本線菊陽新駅の鉄道施設整備及びその周辺環境整備について、格別な財政支援をお願いしたい。
- ③さらに、令和9年度から整備着手予定の空港アクセス鉄道の整備について、都市鉄道関係事業等の他補助制度並みの拡充をお願いしたい。

### 【現状・課題】

#### 〔JR豊肥本線の機能強化〕

- ・JAS Mが立地するセミコンテクノパーク周辺では、従前より通勤時間帯を中心に激しい交通渋滞が発生している状況。渋滞解消に向けて、JR豊肥本線の最寄り駅からは通勤バスが運行されており、半導体関連企業従業員の重要な通勤手段の一つとなっている。
- ・しかしながら、JR豊肥本線は朝夕の通勤、通学時間帯での混雑が常態化しており、接続する空港アクセス鉄道の速達性向上を図る上でも、今後の輸送力の改善、機能の強化は必須の状況である。
- ・さらに、JAS M第二工場の建設発表やソニー合志工場の新規着工など、企業の集積や住宅等の開発が異次元の規模・スピードで進んでおり、今後更なる状況の悪化が懸念され、渋滞解消や混雑緩和に向け早急な対応が必要である。

#### 〔空港アクセス鉄道の整備〕

- ・新生シリコンアイランド九州の中心地としての拠点性を高める視点も併せ持って、長年の懸案であった空港アクセスの改善検討を実施。
- ・熊本市中心部から空港間の脆弱なアクセス改善に加え、半導体関連産業集積地における半導体関連企業従業員の職住近接、公共交通利用を促進し、企業活動の円滑化を図るためには、空港アクセス鉄道の整備が必須である。
- ・現在、JR豊肥本線肥後大津駅と空港とを結ぶ「肥後大津ルート」での整備に向け、令和9年度の整備着手を目標に、具体のルート線形等の検討に着手している。

## 【事業概要】

### 〔JR豊肥本線機能強化の概要〕

整備内容:令和7年度から菊陽町の三里木駅と原水駅の間に新駅(鉄道施設(ホーム、線路等)、駅舎、駅前広場)を整備。今後、更なる機能強化に向けて、原水駅の同時進入化、東海学園前駅の行違い化等も検討(JR九州と調整中)。

概算事業費:約130億円

### 〔空港アクセス鉄道整備計画の概要〕

整備内容:JR豊肥本線肥後大津駅から阿蘇くまもと空港まで鉄道を整備延伸(R8年度:工事施行認可、R9年度:整備着手予定)

整備延長:約6.8km

概算事業費:約410億円

## 【各種データ(半導体関連産業集積地周辺の状況)】

- ・豊肥本線平均通過人員 4,902人/日→11,167人/日(1987→2022年度)
- ・豊肥本線ピーク時混雑率 135%(7:00~9:00 2022年度 国交省公表値)  
※東京圏における鉄道の平均混雑率は123%
- ・阿蘇くまもと空港利用者数 約330万人(R5年度) ※国際線23万人は過去最高
- ・阿蘇くまもと空港国際線定期便数 3路線週23便(福岡空港発を除き九州No.1)
- ・セミコン通勤バス利用者数 約10万人→約27万人(R3→R5年度)
- ・空港ライナー(シャボタクシー)利用者数 約6万人→約13万人(R3→R5年度)
- ・住宅着工数(菊陽町・大津町) 5,000戸以上(R3.4~R6.3)
- ・進出、増設企業の数(菊陽町・大津町) 82社(R3.4~R6.3)



# 半導体関連産業の集積促進に伴う排水対策への支援

【内閣官房、内閣府、総務省、財務省、経済産業省、国土交通省、環境省】

## 要望事項

### 半導体関連産業の集積促進に伴う排水対策への財政的・技術的支援

#### 【要望の内容】

半導体の国内安定供給の基盤を強化するため、集積に伴い増加する工場からの排水を適正かつ確実に処理する特定公共下水道事業について、昨年度新たに創設いただいた「地域産業構造転換インフラ整備推進交付金」による重点配分など、所要の財政措置を講じていただくとともに、技術的支援をお願いしたい。

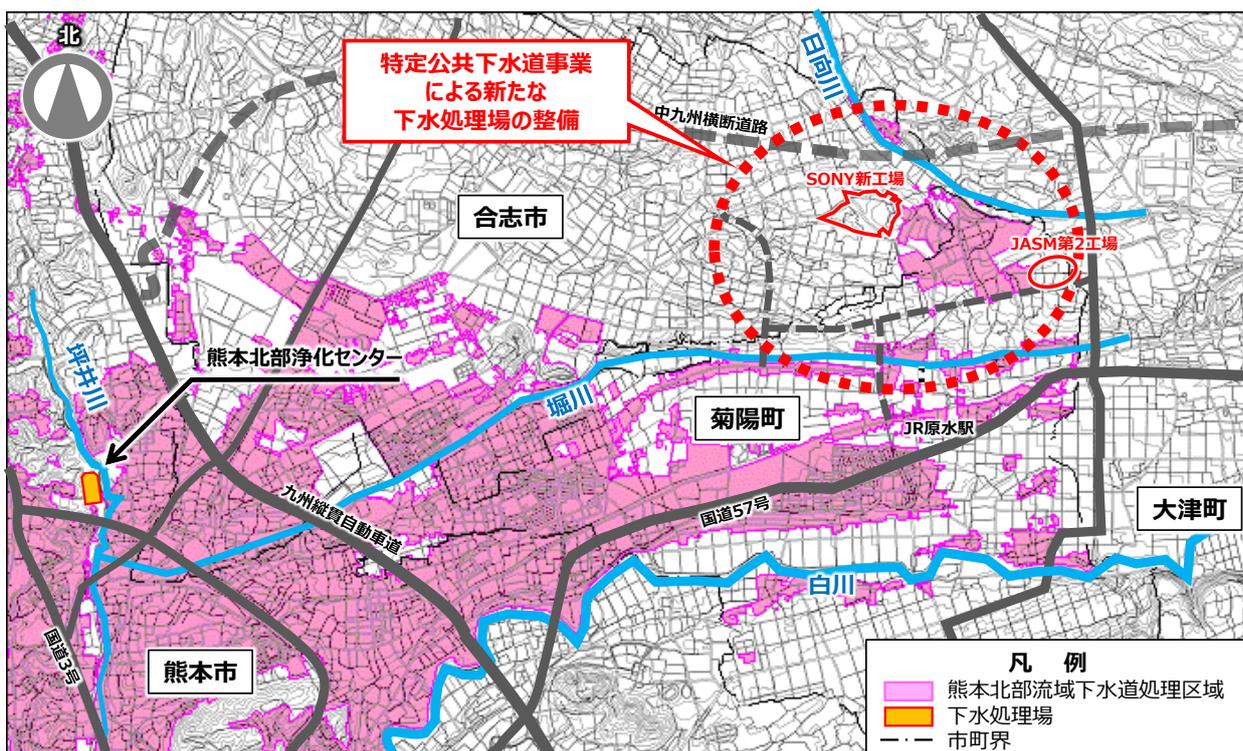
#### 【現状・課題】

世界的半導体企業であるTSMCが進出するセミコンテクノパーク周辺地域では、本年2月にTSMC関連のJASM第1工場が開所し、さらに第2工場についても、第1工場の東側隣接地への立地が発表されるなど、今後更なる半導体関連産業の集積に伴い工場排水の増加が見込まれている。一方、既存処理場の能力不足が懸念されていることから、工場排水に対応する新たな処理場の整備が必要になる。

そのため、昨年度から工場排水を処理するための下水道事業である特定公共下水道事業について、当該箇所への新規採択を認めていただいたところ。

事業実施に際して、企業の操業までの限られた期間で大規模な下水道施設の整備が必要となる。このような状況を勘案し、国において、昨年度必要なインフラ投資を追加的に複数年かけて安定的に対応できる機動的な仕組みとして、通常予算とは別枠となる「地域産業構造転換インフラ整備推進交付金」を創設いただいております。引き続き、最大限の財政支援が不可欠である。

また、本県初の特定公共下水道による処理場整備となるため、生活排水と性状が異なる工場排水の適切かつ確実な処理方法や、官民連携による効率的かつ効果的な事業手法等について、技術的な支援が必要。



# 半導体関連産業の集積促進に係る新規工業用水供給への支援

【内閣官房、内閣府、総務省、財務省、経済産業省】

## 要望事項

**半導体関連産業の集積促進に係る新規工業用水供給に伴う浄水場等の整備に対する財政支援**

### 【要望内容】

半導体の国内安定供給に資する工場の進出に伴い、地下水のみに頼らない豊富で低廉な工業用水の新規供給に必要な浄水場の建設、管路整備等の大規模施設整備に対して、昨年度新たに創設いただいた「地域産業構造転換インフラ整備推進交付金」による重点配分など、引き続き格別の財政支援をお願いしたい。

### 【現状・課題】

- 1 J A S M第1工場が立地する熊本県北部においては、J A S M第2工場やソニーグループの新工場の建設着工など半導体関連企業集積の動きがさらに活発化。一方で、局地的な地下水採取量の大幅増加による地下水位低下等への影響が懸念されている。
- 2 こうした中、河川水を水源とする有明工業用水道の未利用水を活用した工業用水供給を事業化し、現在、配管ルートや浄水場建設地の選定等を進めている。
- 3 民間活力の活用や既設の農業用パイプラインの利用によりコスト縮減や工期短縮を図るものの、浄水場等の整備には多額の初期投資を要し、供給単価が高額となることから、国による継続的な財政支援が不可欠。
- 4 地域産業構造転換インフラ整備推進交付金が創設され、本県が行う工業用水道の整備が支援対象とされたところであり、半導体の安定供給確保に向けた国家プロジェクトの一環として、引き続き、国を挙げての最大限の財政支援をお願いしたい。

事業概要	施設整備内容	浄水場、浄水場と既設パイプライン等を結ぶ管路 等
	概算事業費	約 150 億円

### 【事業イメージ】

